

わたしへの思いを届けます  
くお礼とお願いの言葉く

輪番 小林義教

門信徒の皆さまにおかれましては、慈光  
照護のもとご清祥にてお念仏相統のことと  
存じお慶び申し上げます。

さて、過日「親鸞聖人750回大遠忌法  
要」並びに「覚祖会」を「ご門主様のご親修、  
新門様の御登礼盤を賜って厳修させていた  
だくことができました。

法要日程の天候は雨降りの予報で心配で  
したが、法要当日には空も雨を降らすのを  
こらえてくれたようでありました。

このように、「ご法要が厳粛且つ盛大にお  
勤めさせていただくことができましたこと  
は、ひとえに皆さまのご協力によるものと  
深く感謝申し上げます。

本願寺西山別院報

くお礼とお願いの言葉く

〒615-8107  
京都市西京区川島北裏町  
29番地  
Tel: 075-392-7939  
Fax: 075-394-4416  
発行者: 小林義教

何よりも、私たちはこうした法座に、お  
一人でも多くの方にお参りしていただき、  
別院とのつながりを深めていただくことを  
願っています。

それは、ともにお念仏の教えに出会い、  
ともにいのちを喜び味わいながら心豊かに  
生きる道を歩んでゆきたいと思っからです。

「仏説観無量寿経」というお経に、「仏身  
を觀るものは仏心を見る。仏心とは大慈悲  
これなり」というお言葉が出てきます。

仏さまの心は、生きとし生けるすべての  
ものを、その温かく大きな慈悲につつんで、  
私たちに安らぎといのちの喜びを与えてく  
ださるものです。

仏のお心を聞き、そのお心に導かれなが  
ら、人の幸せをともに喜び、人の悲しみを

ことに、法要委員・仏教婦人  
会の皆さまには、準備段階から  
行事進行の打ち合わせ・会場設  
営やお掃除などの多くのご奉仕  
をいただきましたこと、心から  
お礼申し上げますばかりです。



ともに痛むような人間としての生き方にめ  
ざめさせていただきます。

別院の法要は、慌ただしく過ごす生活の  
なかで忘れがちな「本当に大切」なことを、  
心静かに思い振り返る場なのです。

どうぞ、お参り下さい、心よりお待ちい  
たしております。

合掌

本願寺西山別院  
ホームページ

<http://nisiyama-betuin.jp/>

ブログも  
随時更新中!

西山別院

検索



共同墓碑の建立計画は、6月18日、共同墓碑（合葬形式のお墓）  
が、完成まで約3か月の工事期間の予定で  
着工されました。

この共同墓碑は、納骨を通してお念仏の  
教えにであっていただく願いを原則とし  
て、遺骨の管理についてさまざまに悩みを  
抱えている方々に応えるために建立するも  
のです。

なお現在、納骨者の条件などについて協  
議・検討しておりますので、「運営管理  
規程」等が決定しましたら、皆さまに内  
容をご案内いたし  
ます。

お晨朝にお参りされたご門徒さんと  
一緒に天体ショーを観察しました。→



輪番さんが用意したクリアファイル…。  
← よい子はマネしないでね。

金環日食 5月21日

新入職員ご紹介



4月1日より西山別院で奉職させていただ  
いております大阪教区西淀川組 成覺寺衆徒  
藤末 隆信（ふじすえ りゅうしん）です。  
以前は東京の築地本願寺で3年間勤めてま  
いりましたが、高校、大学などで約10年間  
京都に関わりがありましたので、慣れ親しん  
だ京都の西山別院で奉職させていただくこと  
を嬉しく思っております。4月には親鸞聖人  
750回大遠忌法要がございましたが、お手伝  
いさせていただいているなかでご門徒の皆さま  
の支えにより法要が修行出来、別院が護持  
されているんだと実感いたしました。今後とも皆さまとのご縁を大切に  
し、より一層別院が身近に感じていただけるよう精一杯勤めてまいりま  
すのでどうぞよろしくお願いいたします。

西山別院 法要予定

- 盂蘭盆会  
日時：8月13日(月) 午後4時～  
場所：西山別院本堂
- 彼岸会  
日時：9月22日(土) 午前10時～  
場所：西山別院本堂
- 報恩講  
日時：10月22日(月) 午後2時～  
午後6時～  
10月23日(火) 午前7時～  
午前10時～  
場所：西山別院本堂

皆さまのご参拝、こころより  
お待ちしております。

# 「親鸞聖人750回大遠忌法要」並びに「覚祖会」 (4月21日~23日)



← 50年後の「親鸞聖人800回大遠忌」法要も同様に迎えたいものですね。



法要の朝。なんとかお天気に恵まれました。ほんとうによかった!! →



← かわいらしいお稚児さん行列。大きくなっても覚えていてくれるかな。



本堂に帰ってきました。これから記念撮影です。上手に並びましょう。 →



← 本日はようこそ  
— 来院されたご門主様にご挨拶

## 「親鸞聖人750回大遠忌法要」円成

皆さまのおかげによりまして、平成24年4月22日、当別院「親鸞聖人750回大遠忌法要」のご満座を厳修させていただくことができました。これまでに受け継がれてきた浄土真宗のみ教えを、これからへと受け継いでいく気持ちを新たに、尊いご縁となりました。

また、平成21年度より皆さまよりご進納いただいております「親鸞聖人750回大遠忌懇志」も、諸堂宇の修復や法要修行の経費にあたる目標額38,000,000円に対し、33,914,500円(平成24年6月15日現在)の進納額となりました。ご進納いただきました皆さまにこころより感謝申し上げます。

親鸞聖人750回大遠忌懇志につきましては、当初、4ヶ年の進納依頼をお知らせしました通り、このたび最期の4回目の進納依頼をさせていただきます。何卒、ご理解とご協力くださいますようお願い申し上げます。



親鸞聖人750回大遠忌法要記念事業懇志 進納額	目標額 ￥38,000,000円	現在額 ￥33,914,500円
-------------------------	------------------	------------------

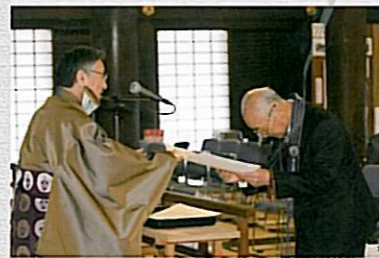
尚、このたび、門徒役員の皆さまと、新たに秋田昇様・近藤林吉様・辻和夫様・辻侃様・堀江勉様に「法要委員」として、お力添えいただきました。厚く感謝申し上げます。



門徒総代 吉川裕丈様



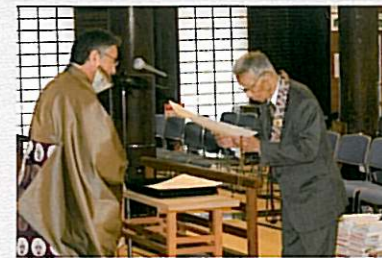
榎木澤工務店様



門徒総代 山口彦治様



門徒総代 北尾英一様



門徒総代 山口三郎様



財産管理委員 中村武史様



財産管理委員 辻晴吾様



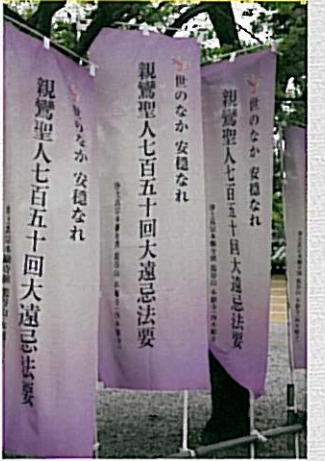
門徒総代 谷舗佳彦様

※門徒総代 井澤豊 様と、財産管理委員 澤野通郎 様はご都合により当日の授与式をご欠席されましたため、後日感謝状をお渡し致しました。

**お詫びと訂正** 先般皆さまにお届け致しました西山別院記念誌『御坊と共に』のなかで、懇志進納者のご芳名を記載させていただきましたページに、下記の通りご芳名の表記漏れがございました。ここに訂正いたしますとともに、お詫び申し上げます。

・『御坊と共に』69ページ — 「懇志進納者ご芳名」 — 檀上一恵

## 親鸞聖人七五〇回大遠忌法要記念事業



## 感謝状の授与式

法要二日目の四月二十二日、法要開始に先立ちまして、「大遠忌法要記念事業」の諸堂宇修復工事に携わられた榎木澤工務店さまと、平素より別院護持運営にご尽力いただいております門徒総代並びに財産管理委員の皆さまへの、感謝状授与式を挙行いたしました。



← 覚祖会のご法座です。新門様まだかな〜？  
—法要3日目 新門様お出迎え



→ 出勤してくださった法中の皆様、  
ありがとうございました。

(2枚) 沢山のお参りでした。



→ ほっと一息。  
徳田先生ありがとうございました。—野点



← 子どもたちにも大人気。  
—あんのんフリーマーケット

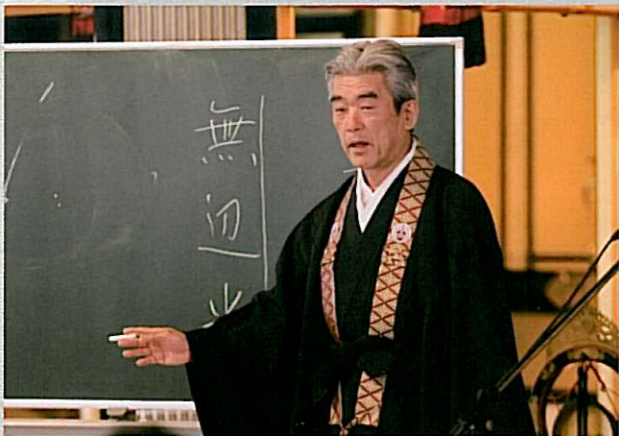
→ 賑やかな子ども達の絵。  
西山別院の姿をテーマに描いてもらいました。  
—キッズアトリエ絵画展



(2枚) 沢山のご参拝ありがとうございました。なんがいつもと違う表情ですね。



← 中川清昭先生、楽しく聞かせていただきました。  
ありがとうございました。—覚祖会ご法座



→ 本堂に流れる素敵な  
音色。—法要2日目  
秋津智承さんチエロ  
コンサート



← 練習の成果!!  
—西山幼稚園コーラ  
ス部「のんのん」の  
みなさんとチエロの  
コラボレーション。



← 親鸞聖人750回大遠忌法要ご法座。  
桑羽隆慈先生、心に侵み入るご法話、  
まことにありがとうございました。



★前回のあらすじ  
 関東常陸から帰京された親鸞聖人は、三帖和讃をはじめとする多くの書物を著わされました。これは、お念仏の教えが広く世にひろまり、また、後世の人々にも届くことを願われた日々でもありました。

○善鸞事件

晩年、京都で暮らす聖人のもとに、はるばる関東から、多くの門弟たちが訪ねて参りました。このことには、聖人が関東を離れた後、関東常陸の門弟たちの間で、「煩惱具足の凡夫が必ず救われるのであるから、どのような悪い言動もおそれず、思うがままに暮らしてよい」という「造悪無碍」と呼ばれる、真宗のみ教えに対する誤った受け止め方が起こりはじめたという背景があったようです。

この「造悪無碍」について聖人は、「平等に救われる業があるからといって、悪行の毒をとることを好んではいけない」「歎異抄」第13条」とはっきり否定しております。

このような状況を受け、聖人の長男にあたる善鸞が、異見を正すために関東に赴きます。しかしこのことが、聖人にとって大きな悲しみを伴う事件へとつながってしまったのでした。

関東において他力本願の教えが正しく伝わりづらくなるなか、善鸞もまた、行き過ぎた言動をとってしまったのでしょうか。情勢が大きく混乱するなか、聖人は、建長八年(一二五六)、善鸞を勘当し事態の收拾を図ります。

勘当したことを関東の門弟達に知らせる通告文には、「今は親ということあるべからず。子と思ふこと思い切りたり。三宝神明に申しきり終わりぬ。悲しきことなり」と、実の子を勘当するに至ったことへの悲

しみも吐露しておられています。聖人八十四歳の時の出来事でした。

この一連の混乱の最中に、信頼する関東の門弟である性信に宛てた聖人のお手紙に、「世のなか 安穩なれ 仏法ひろまれ」のお言葉が出て参ります。京都から、遠く関東の情勢を案するなか、聖人が願っておられたのは、「仏法をこころに入れて、だれしもが、心安らかに日々を送る」ことでした。

善鸞はその後、関東で暮らし、関東の地で没しました。福島県西白河郡泉崎村と神奈川県厚木市飯山にその墓が伝えられています。



○ご往生

聖人が、最期の住処とされたのは、実弟の尋有僧都(天台宗の僧侶)が所有しておられた比叡山飛地境内地の善法院という坊舎であったと伝えられています。傍らには末娘の覚信尼が共に暮らしておられました。

この坊舎そのものは現存しておりませんが、元々の所在地については諸説あるところなのですが、文久元年(一八六一)、親鸞聖人六〇回大遠忌の記念事業として、第二十一代宗主広如上人がその場所を考証され、現在の京都市右京区山ノ内の地に角坊別院を建立されました。

聖人は、この善法院にて、弘長二年十一月二十八日(新暦一二六三年一月十六日)、往生の素懐を遂げられます。御歳九十歳でした。

聖人の御遺言が、後世の著作物『御臨末の御書』に紹介されています。

「我が歳きはまりて、安養浄土に還帰すといふことも、

和歌の浦曲(うらわ)の片男浪(かたおなみ)の、

寄せかけ寄せかけ帰らんと同じ、

一人居て喜ばは二人と思ふべし、二人居て喜ばは三人と思つべし、

その一人は親鸞なり。我なくも法は尽きまじ和歌の浦 あをくさ人のあらんかぎりは」

「お浄土に往生させていただいた後も、和歌山の片男波海岸に波が打ち寄せ続けるように、この娑婆世界にはたつきかけ続け

ます。一人で阿弥陀さまの慈悲を喜んでおられるときは二人と思つて下さい。二人で喜んでおられるときは三人と思つて下さい。その一人とは、私親鸞であります。

命あるものが存在し続ける限り、仏法が絶えることはありません」との御遺言です。



本願寺角坊 還浄殿欄間 聖人ご往生の風景



本願寺角坊 還浄殿欄間 聖人葬送の風景

○現代へ

聖人が善法院にてご往生されてから八年後、同じく善法院でご誕生されたのが第三十一代宗主覚如上人です。西山別院の開基でもあらせられる覚如上人は、聖人のご事跡を顕彰され、本願寺の礎を築き、後の世の私たちに「世のなか 安穩なれ 仏法ひろまれ」のおこころを伝えようとご尽力されました。

現代に生きる私たちに、浄土真宗のみ教えは確かに受け継がれています。



本願寺角坊 (京都市右京区山ノ内御堂殿町25) 平成20年に本山の飛地境内地となり、呼び名が「角坊別院」から「本願寺角坊」と変更された